

# 『ウクライナ問題—論点と展開』

新世界秩序への動き—ウクライナ危機で見え始めた新たな世界秩序

---

麗澤大学 2015-2-21

法政大学 下斗米 伸夫

# はじめに-マイダン革命——年

---

- 「新世界秩序」？それとも無秩序？
- 二月クーデターへの米国関与を認めたオバマ大統領,プーチンのクリミア併合は「即興的対応だった」(CNN2015年1月30日)認める
- BBCもクーデター時の「謎のスナイパー」を特定と報じる
- ミンスクⅡははたして履行可能か
- 東西関係(ロシアと欧米)の将来は
- 日ロ関係の展開は

# ミンスクⅡの評価

---

- 2015年2月12日、ミンスク合意履行に関する複合措置、
- 独仏口首脳とウクライナ大統領が合意、ノルマンディ-方式
- もっとも詳しい分析と情報はシュピーゲル2/14号
- メルケルの危機感は大バリエボでのウ軍(8000?)崩壊の危機
- 米国タカ派の兵器供与による米ロ代理戦争の危険(兵器はロシアに渡る!)
- 地図なしに交渉したのは1939年8月モロトフ・リッベントロフ協定を恐れる
- クリミアは問題とならず、東部二州の拒否権と憲法改正一
- ポロシェンコ政権の改革能力に移る？

# シュピーゲル論文骨子

---

ウクライナ軍は崩壊過程にある、というドイツ政府情報、分離派の台頭、人員の不足、腐敗

米軍の軍事兵器提供案は、むしろロシアに渡る機会になる

6000－8000のウクライナ兵、包囲されていた

メルケルはウクライナ軍を救うためにミンスク合意に応じる。

分離派も、ポロシエンコも時間稼ぎしようとした。

したがって、主導はプーチンではなく、ヨーロッパ主導、しかもメルケルの主導

# 骨子(2)

---

米ロ代理戦争にしたくない、オバマも同様、ハイテク兵器以前、与えれば余計プーチンへの支持率が高くなる

プーチンは、メルケルに譲歩、選挙は新獲得地ではやらない

ミンスク合意は、クリミアに触れず、プーチンの勝利

ウクライナの特別地位法は3月まで、新憲法の規約でロシアプラス

二州はヨーロッパ加盟への拒否権を持つ、事実上の分離

秘密交渉であった、口頭了解

# 1・1000年のアンビバレントな関係＝ロシア、クリミア

---

－988年、キエフ・ルーシのウラジミル大公がヘルソンで受礼(12月教書でプーチンは歴史の故地(クリミア)を取り戻したと主張。

兄弟関係、しかし兄はどちら？

宗教が国家を作った？

国民国家が不在だったユーラシア世界(地政学)

－カトリックと正教の分裂(1054)

# 2・500年=非対称な関係

---

- 東ローマ帝国滅亡をめぐる正教とカトリック
- 正教国家としてのモスクワ(第三のローマ)、ロシア帝国
- 対トルコ帝国『神聖同盟』としてのユニエイト(カトリックと正教の和解)
- 「赤いルーシ(ハリチナ)」はポーランド、ハプスブルグ帝国の支配、スターリン併合(1940)の間違い

# 3・100年=戦争、革命、ネーション

---

- 帝政ロシアの『辺境としてのウクライナ』、
- ロシア革命で固有名詞となる
- 革命でレーニンが「新ロシア」を「ウクライナ」化＝土着化
- スターリンの集団化・飢饉（1930年代）、40年ハリチナ併合
- 独ソ戦、「僕の村は戦場だった」、100万ユダヤ人虐殺、ケルチの戦い
- 1945年 ヤルタ会談 ウクライナ国連加盟、西ウクライナでの反ソ活動
- 1954年 フルシチョフは平和共存、クリミアはウクライナに割譲



# ハイブリッドな国民形成＝崩壊含み

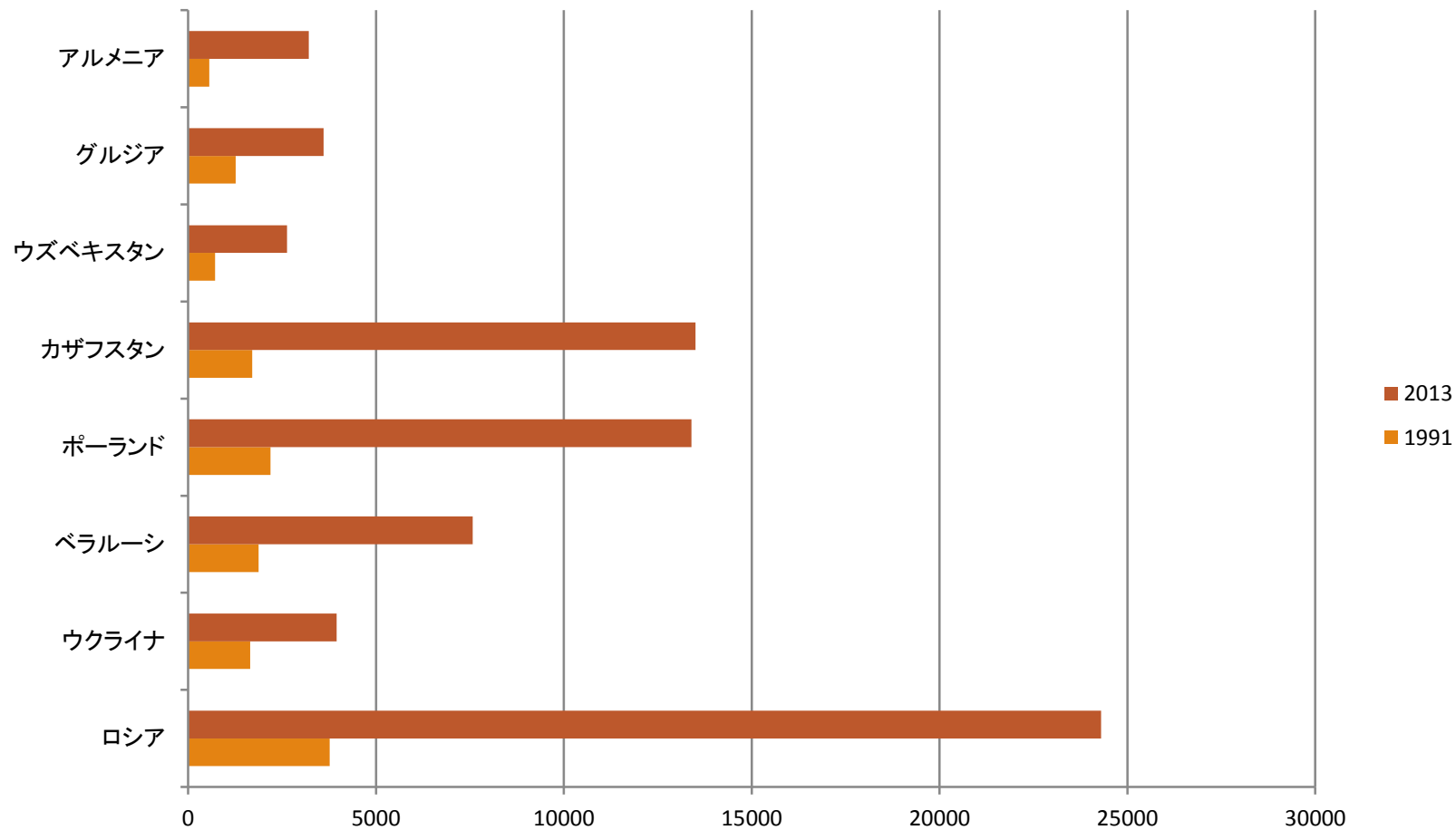


# 4・25年＝冷戦後

---

- 意図せざる独立(1991)、東西の分裂したネーション、エリートの周流
- 東部軍産部門、ロシアの援助で成り立つ経済
- ソ連期以下の経済パフォーマンス、「オレンジ革命」を招く弱さ
- 黒海艦隊、クリミア問題＝1997年条約、「ガス」と「安保」の交換

# 国民所得比較(1991－2013)



# 5・2014年

---

- 欧米、ロシア、ウクライナの非対称的相互依存（2010ハリコフ合意）
- マイダン革命が断ち切ったバランス、米国の過誤、それとも？
- クリミアは併合か祖国復帰か？
- 新ロシア内戦は代理戦争か、それとも大国がローカルな紛争に巻き込まれたのか

# 6・2015年以降

---

- 制裁はエネルギー・経済へ
- ウクライナは崩壊危機、ロシアは経済危機
- ウクライナは国家として生き残り可能か？
- ロシアとヨーロッパ、—米ロ、対立と孤立
- ロシア人は「アジア人」になれるか？
- 日本は米ロ関係をつなげるか

# ミンスク合意Ⅱ？

- 2015年は軍事対立激化？それとも和平への道？
- 空港、マリウポリでの激化
- 動員できない軍隊
- 独仏露ウの交渉
- ヨーロッパにとっての危機感
- 米国にとって重荷か？オバマ発言の真意
- 介入の限界、特に孤立主義の現在



# 可能性

---

- ミンスクⅡ からミンスクⅢへ
- 問題—米国のコミットの不透明
- 「イスラム国」でウクライナ問題は忘れられる？
- 一米ロが共同すべきテーマは多い（世界経済、核拡散問題、経済、イスラム、中国、朝鮮半島など）
- ウクライナ=ロシア戦争, 欧米介入しないまま